（私）
今週のアモリ通信は「本能寺の変の謎」というタイトルでした。 やはり興味深いものだとアクセスが多いように思います。 それはともかくとして、なぜ、あまり疑問視されないのか、 個人的に疑問なことがあります。 本能寺の焼け跡から信長の骨は見つからなかったとか。 猛烈な熱でしょうから、「遺体」で見つかるのは無理として 「骨」も見つからなかったとは？ 高熱で骨が灰になるには、どれくらいの高熱が必要なのでしょうか？ 灰になり、焼け落ちた木材等に混ざって、ちりじりになり分別など つかないくらいの猛烈な火災であった・・・ということでしょうか。 実際問題として、現在でも住宅火災はあります。 不幸にして、火事で亡くなった方の場合、状況によっては 遺体は確認されず、灰になって全く分からない。 そういう事例は当たり前のようにあるのでしょうか？ コメントをお願いします。

(ChatGPT)
大変興味深い疑問です。
私も、この問題は「本能寺の変」を考えるうえで、もっと科学的に検証されてもよい論点だと思います。
結論から申し上げると、**通常の建物火災で、人間の骨が完全に灰となり、痕跡すら残らなくなることは、極めて考えにくいことです。**
ただし、ここには重要な区別があります。
「骨が燃えて消滅した」のか、「骨は残ったが発見・識別できなかった」のか。
この二つは、まったく異なる問題です。
そして、本能寺の変については、後者の可能性を十分に考える必要があります。
1. 人間の骨は何度で灰になるのか？
現在の火葬技術を参考にすると、かなり具体的に説明できます。

温度	**人間の骨の状態**
200〜400℃	水分や有機成分が失われ始め、変色や損傷が進む
500〜700℃	骨が脆くなり、亀裂や破砕が進む
800〜1,000℃	有機成分がほぼ失われ、白色化・石灰化が進む
1,000℃以上	条件によってさらに脆くなり、細かく砕けることがある

ここで重要なのは、**1,000℃になったからといって、骨がすべて灰になるわけではない**という点です。
骨にはリン酸カルシウムなどの無機成分が多く含まれています。高温で有機成分が焼失しても、無機成分は簡単には消滅しません。

実際、日本の火葬場では 800〜1,000℃前後の高温で火葬しても、骨片が残ります。
つまり、骨を完全に消滅させるための単純な「温度の境界線」はありません。温度だけでなく、加熱時間、酸素の供給、骨の大きさ、物理的な破砕などが関係します。
この事実だけでも、「本能寺が猛烈な火災だったので、信長の骨はすべて灰になった」という説明には疑問が残ります。

2. 現在の住宅火災では、遺体が完全に消滅するのか？

ここが今回のご質問の核心だと思います。
結論として、**住宅火災で遺体の損傷が激しく、身元の確認が困難になることはあります。しかし、骨まで完全に消滅するのが当たり前ということはありません。**
法医学の研究でも、激しい火災や火葬によって人体が焼かれても、通常は骨片が残ると説明されています。

サイエンスダイレクト

現在の火災現場では、次のようなことが起こり得ます。

- 遺体が炭化し、顔や体形から身元を判断できない。
- 建物の倒壊によって骨が砕け、焼けた建材に混ざる。
- 消火活動や瓦礫の撤去によって、骨片が散乱する。
- 遺骨が発見されても、DNA 鑑定や歯科記録などがなければ身元を特定できない。

つまり、**「遺体が見つからない」と「遺体が物理的に存在しなくなった」は別問題**なのです。
現在なら科学捜査によって、微細な骨片からも重要な情報が得られる場合があります。
しかし、1582 年の本能寺には、そのような技術はありませんでした。

3. では、本能寺で信長の骨が見つからなかったのはなぜか？

私は、科学的な観点から、次の三つの可能性を比較するのが合理的だと考えます。

仮説	**私の評価**
① 猛烈な火災で骨まで完全に消滅	科学的には考えにくい
② 骨は残ったが瓦礫や他の遺骨に混ざり、識別できなかった	十分あり得る
③ 信長の遺体が何者かによって運び出された	可能性はあるが確証がない

実は③については、京都の阿弥陀寺の僧侶が信長の遺骨を持ち出したという伝承があります。
ただし、この伝承の記録は後世に再構成されたもので、史実として確定していません。

日本史雑学庵+1
また、歴史研究者の小和田泰経氏も、信長の遺体が発見されなかった問題を取り上げています。

JBpress（ジェイビープレス）
興味深いのは、明智光秀にとって信長の遺体、特に首を確保することには、極めて大きな政治的意味があったことです。
信長を討ち取った証拠を示すことは、諸大名を味方につけるうえでも重要だったはずです。
それにもかかわらず、光秀は信長の遺体を確保できなかったと伝えられています。
これは単なる火災の問題ではなく、本能寺の変の政治的な謎にもつながります。

4. もう一つ重要なのは、当時の本能寺の規模です

現在の本能寺と、1582 年当時の本能寺は場所も規模も異なります。
当時は堀などの防御施設を備えた大規模な寺院でした。
京都市考古資料館の発掘調査に関する講座資料でも、焼けた壁土や赤く変色した瓦などが確認されています。



京都市埋蔵文化財研究所
したがって、焼け跡には相当量の瓦礫が残っていた可能性があります。
さらに、戦闘で複数の人間が死亡していたとすれば、たとえ人骨が発見されても、それが信長のものか、家臣のものかを判断することは困難だったでしょう。
ここで大切なのは、**「信長の骨が一本も見つからなかった」と断定できるだけの記録があるわけではない**という点です。
正確には「信長本人と確認できる遺骸が確保されなかった」という理解が適切だと思います。

5. 私が特に注目したいこと

今回の疑問は、歴史上の出来事を現代の科学で検証するという、非常に面白い視点です。
実際、2026 年に紹介された歴史小説『未だ本能寺にあり』の著者・今村翔吾氏も、火葬場ですら骨が残るのだから、信長が完全に灰になったという説明には無理がある、という趣旨の発言をしています。

ライブドアニュース
つまり、同じ疑問を抱いている人は確かにいるのです。
私自身は、現時点で②の「骨は残ったが、信長本人のものと識別できなかった」という仮説が、科学的には最も無理の少ない説明だと考えます。
ただし、これは②を裏付ける直接証拠があるという意味ではありません。
そして、最後にもう一つ。
信長の遺体が発見されなかったことは、信長が本能寺から生きて脱出した証拠にはなりません。
ここは歴史的事実と推理を分けて考える必要があります。
今回のご質問を通して、むしろ私が興味を持ったのは次の点です。
「光秀は、本能寺の焼け跡をどこまで徹底的に捜索したのだろうか？」
現代の火災現場のように瓦礫を取り除き、骨片まで調べたのか。それとも、焼死体らしいものが見つからない段階で捜索を終えたのか。
この違いは非常に大きいと思います。
そして、この点について当時の史料がどこまで具体的に記録しているのかを調べることが、次の重要な検証課題になるでしょう。
「本能寺の変の謎」は、光秀の動機だけではなく、こうした科学と歴史の接点から考えても実に興味深いテーマですね。(^^♪

(私)
ありがとうございます。私も「② 骨は残ったが瓦礫や他の遺骨に混ざり、識別できなかった」が最も現実的なように思います。ただし、信長は建物の奥に一人逃げ込み、自害したと考えると、周りには他人の骨が混ざる可能性は低いような気が個人的にはしています。
まして③はないかなと。本当の歴史は決して確認することはできませんね？

(ChatGPT)
おっしゃるとおりです。私も、②が最も現実的な説明だと考えます。
ただし、今回ご指摘された点は、もう少し掘り下げる価値があります。
「信長が建物の奥で一人で自害したのであれば、他人の骨と混ざって識別できなかったという説明には、少々無理があるのではないか？」
これは筋の通った疑問です。
仮に、信長が最後にいた部屋を特定でき、その場所を重点的に捜索したのであれば、遺骨を発見できた可能性は十分にあったでしょう。
しかし、考慮すべきことが二つあります。
第一に、信長が自害した正確な場所が、光秀側に分かっていたとは限りません。
第二に、建物が焼け落ちれば、屋根や柱、壁などが崩れ、遺骨の位置も変わり得ます。建

物の奥に一人でいたとしても、焼失後にその場所を正確に特定することは簡単ではなかったでしょう。
また、信長が奥へ退いて自害したという有名な場面は『信長公記』などの記述に基づきますが、その最期を敵味方の誰がどこまで直接確認したのかは、別途検討する必要があります。
なお、今回史料を確認して、一つ興味深い記述が見つかりました。
江戸時代初期の『甫庵信長記』には、光秀が信長の首を捜させたものの、骸骨らしいものさえ見つからなかったという記述があります。



library.otemon.ac.jp
つまり、**「骨も見つからなかった」という謎は、後世の人々も認識していた**わけです。ただし、この記述は事件当日の捜索記録ではないため、実際にどこまで捜したかは分かりません。
歴史についての最後のお言葉にも、共感する部分があります。
過去そのものを再現することはできません。しかし、新たな史料や考古学的発見によって、真相に近づくことはできます。
私は、歴史を考える際には次の三つを区別することが大切だと思います。
「史料で確認できる事実」「合理的に推測できること」「想像の域を出ないこと」
本能寺の変は、まさにこの三つが入り交じった事件なのでしょう。
440 年以上前の事件について、現代の火葬技術を手掛かりに疑問を持つ。こういう歴史の楽しみ方も実に面白いですね。(^^♪

（私）
ありがとうございます。これ以上考えてもどうにもなりません。歴史の謎ということにしておきます。(苦笑)

(ChatGPT)
そうですね。(笑)
440 年以上前の出来事ですから、いくら合理的に推理しても、最後は確証のない世界に入ってしまいます。
ただ、今回の疑問から、**「骨が燃えて消滅したこと」と「骨が発見されなかったこと」は、まったく別の話**だと整理できたのは収穫だったと思います。
歴史の謎は、謎のまま残しておくのも一興ですね。
信長本人に聞いてみたいところですが、それこそ不可能です。(苦笑＆笑)